

造血器腫瘍患者が 感染防御をしながら治療を継続していく生活: 悪性リンパ腫と急性白血病患者のマイクロ・エスノグラフィ -

著者	片桐 和子
学位名	博士(看護学)
学位授与機関	聖路加国際大学
学位授与年度	2020
学位授与番号	32633乙第16号
URL	http://doi.org/10.34414/00016459



氏 名：片桐 和子

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：乙第16号

学位授与年月日：2021年3月10日

学位授与の要件：学位規則第4条第2項該当

論文審査委員：主査 小林 京子（聖路加国際大学教授）

副査 麻原 きよみ（聖路加国際大学教授）

副査 木下 康仁（聖路加国際大学特命教授）

副査 小松 浩子（日本赤十字九州国際看護大学教授）

論文題目：造血器腫瘍患者が感染防御をしながら治療を継続していく生活-悪性リンパ腫と急性白血病患者のマイクロ・エスノグラフィ-

博士論文審査結果

片桐氏の研究の目的は、造血器腫瘍患者が感染防御しながら治療を継続していく生活の意味を明らかにし、感染防御をしながら治療生活を継続していく患者を支える援助の示唆を得ることである。マイクロ・エスノグラフィの手法を用いて、化学療法から造血幹細胞移植を受ける悪性リンパ腫4名、急性白血病3名の計7名の患者と、医療者に対するインタビュー、参加観察、看護記録やパンフレットなどの書類からデータ収集し、感染防御をしながら治療を継続していく生活の仕方や考え方の観点から分析した研究であった。

博士論文では対象者に共通した特徴が描き出され、造血器腫瘍患者の感染防御をしながら治療を継続していく生活には、【自分なりに感染防御のための行動を律していく】【病や治療に打ち勝つ活力を温存し蓄え、強化していく】【限られた空間の中で自分の空間を作り、未来に自分の空間を広げる】の主要なテーマが見出された。研究結果は、データに立脚した分析、導き出されたテーマと概念の一致、対象者の有り様が生き生きと描かれており、片桐氏の本研究テーマに対する専門性と研究対象者に対する温かい看護の基盤が見えた。また、丁寧な計画・研究の遂行・データ収集という方法論の確かさが評価された。審査の討議では、【自分なりに感染防御のための行動を律していく】ことの文脈について、【限られた空間の中で自分の空間を作り、未来に自分の空間を広げる】の“空間”が示す意味についての質疑がされた。考察は多くの文献を引用しながらテーマごとの検討がされているもの、本研究の該当領域において位置付けていくことが今後に望まれることされた。修正点として、英文抄録の英語表現の遂行を行い適切な語を用いること、テーマの【限られた空間の中で自分の空間を作り、未来に自分の空間を広げる】についての“空間”を今一度遂行することの指摘がされた。指摘に対して、“空間”を丁寧に考察する修正が加えられた。また、審査では今後の発展として、見出され

た対象者の共通性の意味づけに加えて、リッチ なデータからの個々の対象者のプロセスや、マイクレスノグラフィーの方法論を投稿論文 としていくことが提案された。

片桐氏は、本研究を臨床疑問に根ざし長期間を要する本研究を丁寧な方法論によって遂行し、造血器腫瘍患者の今と未来の生活に影響を及ぼす感染防御についての意味を明らかにしており、その看護学研究者としての能力が評価された。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士(看護学)の学位を授与することに 値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査に合格と判定する。